

先端研究拠点事業—国際戦略型—
「ソフトマターと情報に関する非平衡ダイナミクス」
セミナー・シンポジウム 派遣報告書

2013年6月17日

氏名(ふりがな)	中垣俊之 (なかがきとしゆき)
所属機関・部局・専攻内の所属分野	公立ほこだて未来大学・システム情報科学部・複雑系知能学科
身分・学年 (学生の場合は指導教員名)	教授
メールアドレス	nakagaki@fun.ac.jp
電話番号、FAX	0138-34-6464

セミナー・シンポジウム名	7th international Conference on Engineering of Chemical Complexity
場所 (国名・都市)	Germany, Wardemunde
派遣期間	2013年6月9日—14日
セミナー等の日程	
URL	

セミナー・シンポジウムに参加することで得られた知見・議論の成果を500字程度で記述してください。スペース不足の場合は、用紙を追加してください。感想などもあれば記載してください。

ノーベル賞受賞者エルトル教授が組織する国際会議「Engineering of Chemical Complexity」に参加した。化学反応系やレオロジカルな系における自己組織化とパターン形成の実験的理論的な state-of-art を俯瞰できた。特に、研究テーマに近い細胞系の運動モデルについて、自分との研究の対比が出来て視野を広げられた。

セッション「細胞の自己組織化」にて招待講演「Behavioral diversity and decision-making of an amoeboid cell」を行い研究成果を公表した。また参加者と議論を交わして、当該分野の最新情報を調査した。

粘菌の運動モデルについては、これまで数年にわたり議論を重ねてきたベア教授とハウザー教授らの進捗状況を知ることができた。今後も議論を続けていくことを確認した。

振動子系の位相縮約理論のセッションがあり、クルト教授、中尾教授、郡教授らの発表を聞いて、蠕動的這行運動制御一般への適用が可能ではないかとの着想を得た。